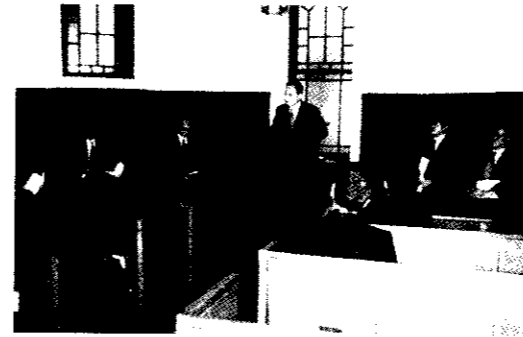


労働リーダーシップコース活動報告

第37回労働リーダーシップコース上級コース

IMF-JCは、結成以来、労働組合リーダー育成に力を入れ、労働リーダーシップコースの上級コースと基礎コースを毎年開講している。ここでは、過去2年間の労働リーダーシップコースの活動報告を紹介する。金属・ものづくり産業という共通する土俵の中で、単組・企業連・産別の枠を超えての労働リーダーシップコースは、次代を担い切り開きゆくユニオンリーダーとして必要な視野を拡大し、幅広い専門知識を身につけ、幅広い深い人脈づくりに格好の場を提供している。



第37回上級コース開校式(明治学院大学記念館)

受付ロビーでは、半年ぶりにお会いするIMF-JC事務局の皆さんのお元氣そうな顔、顔、挨拶を交わすなかで、半年間の空白は瞬く間に消える。お互いの近況報告の間にも、懐かしい顔が全国各地から次々と集まってくる。今日はここで労働リーダーシップ上級コースのフォーロアアップ研修が開催されるのだ。そもそも、この面々と初めて出会ったのは、2003年11月に行われた第37回労働リーダーシップ上級コース開講式である。アイシン労組の藤江、富士労連の中川、住友電工労組の松本、富士通労組の成瀬、関東自工労組の小林、マツダ労組の久重、スズキ労組の田口、三菱重工労組の山口、同労組の倉永と総勢9名の受講生である。明治学院大学記念館チャペルでの厳かな雰囲気の中で行われた開講式から2週間に亘った研修は、前半が大学での社会・企業・労働運動それぞれの変遷に関する講義後半がメロンディアでのプレゼン・ディベート・カウンセリングなどの実習、更に全期間を通じてセミナーで構成されていた。大学では成績不良学生の気分を、メロンディアでは新人研修の気分をそれぞれ久しぶりに満喫し、最終日に各人がセミナーのまとめを発表したシンポジウムでは、文字通り寝る間も

「金属労協の新しい運動の変化を踏まえ、金属産業の政策づくりを推進し、新たな労使関係を構築できる人材を養成する」ことを目的とする、第37回労働リーダーシップ上級コースが、2003年11月10日から11月22日まで2週間の日程で開催された。第37回上級コースには、加盟産別の企業・単組から代表9名が受講した。

受講生は、「3つの大きな変化を読み、労働組合の戦略を考える」ために、1週目は都内港区白金台の明治学院大学キャンパスにおいて、講義を通して、「社会の変化」と「企業の変化」を学び、2週目は横浜市にある三菱電機労組研修センター「メロンディアあざみ野」に全員合宿して、鈴木議長による「新たな時代に対応する労働組合活動」、團野事務局長による「金属労協の取り組み課題と挑戦」、小島顧問による「国際化と多国籍企業の労使関係」など「金属労協の運動の変化」について学



カウンセリングの講義・実習

また、明学の大平・神田両教授を指導教授とする、4回にわたるゼミナールでは、労組や職場で現在抱えている諸課題を持ち寄り、それらの課題に共通する問題点を掘り下げて、解決策について話し合い、各人での成果をレポートにまとめた。

この他、組合上級リーダーとして必要な実践スキルとして、「戦略づくりノウハウ」、「プレゼンテーション能力」、「カウンセリング能力」を身に

「ト能力」を関連付けて習得するアクティブ・アプローチも学んだ。

講義最終日の11月21日には、コース総括としてシンポジウムを開き、各人がアクティブ・アプローチで学んだスキルも活用し、パワーポイントを使ってその成果を発表しあった。



三菱重工労組名護支部/倉永誠史
2004年5月、初夏を思わせる陽気の中、横浜市にある三菱電機労組の研修・保養施設メロンディアあざみ野を訪れた。

●受講生代表(学生長)コメント
IMF-JC第37回労働リーダーシップ上級コース及びフォーロアアップ研修を振り返って

を振り返っての感想とさせていただけものである。

●受講生レポート一覽(受講生役職は参加当時のもの)
受講生が2週間のゼミナールを通じて各自の組合・職場での課題について議論・研究してまとめたレポートのテーマは以下の通り。

【大平ゼミ】

●「今、組合執行部が問われているー執行部が持つべき労働組合

観とは」その後の経験と考察(成瀬 豊/富士通労組ソフトサービス支部副委員長)

●「国内出向者の満足向上」(久重道正/マツダ労組広域組織部長)

●「執行部の考え方を職場に伝えるために」(田口 章/スズキ労組副委員長)

●「コミュニケーションのよい労働組合をめざしてー職場協議会の活性化に向けて」(山口光一/三菱重工労組高砂製作所支部執行委員)

【神田ゼミ】

●「総労働時間問題」(藤江亨/アイシン労組アイシン・エイ・ダブリュ支部中央執行委員)

●「自分たちの組合活動が日本を変える」(中川文蔵/富士労連中央執行委員)

●「生活支援力向上への取り組みー組合活動のより一層の充実を図るために」(倉永誠史/三菱重工労組名古屋誘導推進システム製作所支部執行委員)

●「企業の分社化に対応した組合組織の変革」(松本圭司/住友電工労組書記長)



第37回上級コース・フォーロアアップ研修会(2004年5月)

第38回労働リーダーシップ上級コース

古賀議長を囲んでの質問会



第38回労働リーダーシップ上級コースは、2004年11月15～27日までの期間、加盟産別・単組から8名の組合役員が参加し、開催した。

1週目（11月15～19日）は、港区白金台の明治学院大学キャンパスで、開講式、第一部「社会の大きな変化を読む」、第二部「企業の変化を読む」の各講義を受講するとともに、二つのゼミナールに分かれ、担当講師の指導のもと、組合・職場における課題解決に向けた議論を行った。

今回から、ゼミ担当に大平・神田



第38回上級コース・シンポジウム

両教授に加え、石井康彦高千穂大 学助教授にも参画していただいた。

2週目（11月21～27日）は、三浦半島の高台に位置し、相模湾と富士山を一望できる、生産性国際交流センターで、合宿制のもと、第3部「金属労協の運動の変化を読む」の講義を受けた。古賀議長からは「新たな時代の労働運動と運動課題」と題して講義を受けた後、議長を囲んで懇談的に質疑応答の場を持った。前半のゼミナールでの課題整理を踏まえて、議論を更に深めて解決策を模索し、その成果を総括シンポジウムで各人



三菱重工労組工機支部・執行委員／福本 薫

◎受講生代表（学生長）コメント
第38回IMF/JC労働リーダーシップ上級コース
最初に、今回のセミナーで講義をいただいた先生方、ならびに約二週間の期間中毎日お世話

が発表された。
また、受講生は2週間を通して、この他に実践的なスキル習得を目的とするアクティブアプローチとして「プレゼンテーション」、「ダイベイト」、「カウンセリング」、「組合戦略づくり」の4講座も受講した。

をいただいた事務局の皆様と、このような受講の機会を与えていただいた皆様へ心からお礼を申し上げます。

日々の多忙に追われる中で、初めは職場を長期間離れる事に疑問を感じながら参加したというのが本音でしたが、二日、三日と日が経つにつれ講義内容の充実さ・新鮮さから、いつしか参加出来て良かったと心から思えるようになりました。

前半一週間は明治学院大学の



大平ゼミでのディスカッション風景

中の教室で、運営委員をされている教授を指導講師とするゼミナールでディスカッションをする。ともに、日本の社会・経済の大きな変化に関する講義、そして、激変する企業の変化に関する講義を受けました。キャンパス内のヘボン館に刻まれた、明治学院大学の創立者ヘボン氏の「Do for others」の言葉はまさしく労働組合の精神と同じくするものだと感じました。

後半一週間は、山と緑に囲まれた素晴らしい環境の湘南国際村にある、IPC国際交流センターで充実した講義を受ける事ができました。

講義の内容は私自身の予想を超えて、どれも高度な内容・新しい発想・耳慣れない言葉でついて行くのがやっとの状態でしたが、それは私にとっても新鮮で有意義な内容の講義でした。そして受講後4カ月たった今、一つずつ自分の中で確実に成果となって現れていると実感しています。

ここで得た、多くの知識・経験・考え方を十分に活用して、今後の労働組合活動に取組んで行きたいと思っています。



神田ゼミでのディスカッション風景

また、ゼミの中で新たに知り合ったメンバーとも同じ苦労を共有した事でより良い人間関係を築く事ができましたので、これを大切にし更なる組合活動の充実に繋げてまいります。

◎受講生レポート一覧（受講生役職は参加当時のもの）
受講生が2週間のゼミナールを通じて各自の組合・職場での課題

について議論・研究してまとめたレポートのテーマは以下の通り。

- 【大平ゼミ】
- 「電子コミュニケーションの改善」（堀井説也／三菱電機労組神戸支部執行委員）
 - 「少子高齢化時代の働き方の改善」（菊川英児／日野自動車労働組合中央執行委員）
 - 「労組執行部と機関委員のあり方」（福本 薫／三菱重工労組工作機械支部執行委員）
 - 「新賃金体系への提案」（伊藤太郎／フジクラ労組中央執行委員）

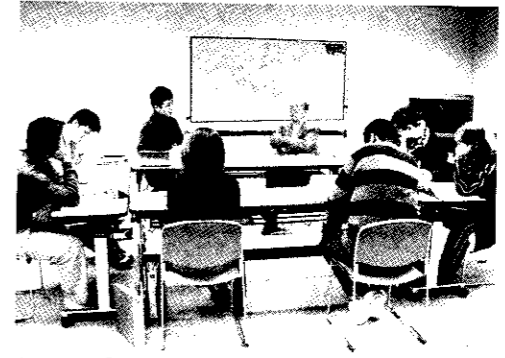
- 【神田ゼミ】
- 「電機連合会「職業アカデミー構想」に関する考察」（宮 健一 電機連合本部書記）
 - 「組織の活性化に向けて」（江川裕輔／ヤマハ発動機労働組合 中央執行委員）
 - 「従業員活性化への道筋」（大森 隆正 部品労連日本発条労働組合事務局次長）
 - 「組合員減少に関わる対策」（山本義広／三菱重工労組下関造船支部執行委員）

第35回労働リーダーシップコース(基礎)

第35回労働リーダーシップコース(基礎)は、2004年1月8日～24日の日程で、京都・関西セミナーハウスにおいて開講した。同コースには、金属労協傘下単組の中堅役員34名(うち友誼組織2名)が受講し、労働組合リーダーとして必要な基本的知識について講義を通して学ぶと共に、セミナーにおいて労働組合の各課題について指導講師のもと、徹底した討議を行った。また、受講生間においては、実行委員会による運営のもと、全期間合宿制で、産別・単組の枠を超えて、ものづくり・金属産業の仲間として、深い人間関係を培った。



第35回・労働リーダーシップコース開校式



竹中ゼミ:「労働と人間」

分の立つ歴史「縦」。「自分の住む世界」横。「自分の生きる基礎」深。の4つの柱に基づく人間的な人間形成をめざしたカリキュラムのもと20講座を受講した。

特別プログラムとして、鈴木議長による開校講演、経営者による特別講演「経営と人間」(シャープ株式会社江相 井上所長による「朝の会」、受講生による自主的な「討論会」をはじめ、茶室や座禅体験など日本文化に触れる機会も持った。

また、コースの特徴として、指導教授のもとに、5つのゼミナールに分かれ、「労働組合と人間」、「労働組合と



◎受講生代表(級長)コメント
「仲間」

社会、「労働組合と職場」、「労働組合と世界」、「労働組合と社会貢献」をテーマに四回のゼミナールでものづくり・金属産業の職場や組合における様々な課題について突っ込んだ議論を行った。その成果をレポートにまとめると共に、まとめの発表を行った。

松下電工労組滋賀支部書記長
鈴木克則

2004年1月に第35回IMFJC労働リーダーシップコースがスタートし、受講生34名が小雲舞う古京都に集まり、ともに学び、考え、悩み、語りあい、笑い、泣いた。本日に充実した16日間を過ごしました。

この期間は日常の繁忙生活から離れ、政治・経済・財政・雇用・法律・倫理・労働関係などの講義を中心に労働組合活動のベースとなる知識を習得し、ゼミ形式でのディスカッション・

発表、パネルディスカッションなど話し合いを中心としたカリキュラム、また一方では早朝のラジオ体操・ウォーキング・座禅など多彩なカリキュラムが組まれており、徹底的に頭と体を鍛えられました。

もうひとつ大事なカリキュラムとして、ほぼ軟禁状態に近い状態をなんとか乗り切れたのはスポーツ交流会・夜の交流会(ゼミ対抗の出し物)・ゼミ交流会など、飲みニケーションもタイミング良く節々で企画されており、そのときに「笑い」「楽しみ」「心の解放」をしていただけたと思います。この絶妙なカリキュラムは長い歴史で培われたノウハウだと思えます。

このセミナーの中で教えて頂いた数多くのことのひとつに「人間は間に生きる存在」。この言葉は開講2日目竹中校長に教えて頂いた言葉で、私にとってこのセミナーはまさに新しい「仲間」との出会いの場でした。おのの生い立ち、性格、仕事、置かれていた環境などいろいろ違いはありますが労働組合のリーダーとしての課題・悩みを本音で話し、語り合えたことと語り合う「仲間」に出会えたのは、今後の人生において大きな「宝物」になるのではないのでしょうか?セミナーを終えて日常に戻り、悩んだときにこの言葉を思い出し、自分だけでなく同じ悩みをもつ「仲間」がいることを思い出し、何度となく勇気づけられました。教えて頂いたことのひとつとつが労働組合活動だけでなく、生きていく上で大変貴重な財産となっています。

第35回受講生の皆さんへ

激動、激変、グローバルと現代を表現する言葉はいろいろとありますが、そんなときに同じ時間を共有した仲間として、今後とも組合員の幸せや明るい社会の実現に向けてお互いがんばりましょう。そして今後とも未永いお付き合いをよろしくお願いします。

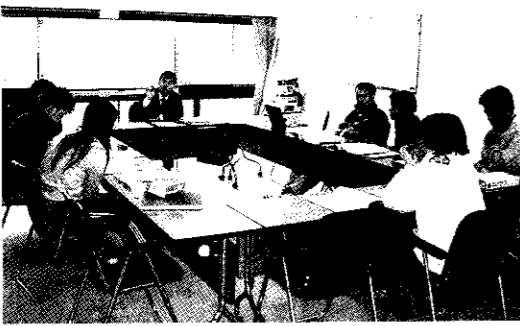
最後に竹中校長をはじめ運営委員会の先生方々、井上所長や高橋さんをはじめ関西セミナーハウス職員の方々、早朝から英会話を教えていただいた留学生の方々、IMFJCの事務局の方々に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

◎受講生レポート一覽(受講生役職は参加当時のもの)

受講生が2週間のゼミナールを通じて各日の組合・職場での課題について議論・研究してまとめたレポートのテーマは以下の通り。

「竹中ゼミ」

- 「人生の目的」(著者:丸木 寛之) 丸木 寛之
- 「鈴木克則」松下電工労組滋賀支部書記長
- 「大塚久雄」社会科学における人間」に学ぶ」(渡辺純子、パナホーム労組中央執行委員)
- 「大江健三郎」新しい人へ」に学ぶ」(渡辺俊允、全日本労働シヨウワ労組副書記長)
- 「松井孝典」人生に座標軸を持つ」に学ぶ」(鈴木雅義、全日本労働シヨウワ労組副書記長)
- 「西川幾多郎」人間の生涯という」に学ぶ」(平澤下春、コマツユニオン栃木支部副委員長)
- 「磯谷三喜男」人間と労働」から学ぶ」(藤取英雄、コマツキヤステックス労組書記長)



香川ゼミ:「労働組合と世界」

「平田ゼミ」

- 「人間の生きる意味について」本田宗一郎 語録に学ぶ」(山崎吉博/神戸製鋼所労組神戸支部執行委員)
- 「地域コミュニティビジネスの展開について」(藤原直和) 三洋電機労組東日本支部書記長
- 「地域コミュニティビジネスの構築」(大川原功城、松下電工労組郡山支部書記長)
- 「コミュニティビジネスの検討」スポーツを通じた地域の元気づくり」(山口幸夫、全日本労働連山支部書記長)
- 「地域コミュニティビジネスの取り組み」地域型NPOの確立を目指して」(網戸茂、マツダ労組組織部長)
- 「地域活性化のためのコミュニティビジネス」NPO活動を通じた社会貢献」(松井武、ヤマハ発動機労組中央執行委員)
- 「地域コミュニティ・ビジネスの取り組み」

「中條ゼミ」

- 「ゼミ・テーマ」労働組合と社会貢献」
- 「地域コミュニティビジネスの展開について」(藤原直和) 三洋電機労組東日本支部書記長
- 「地域コミュニティビジネスの構築」(大川原功城、松下電工労組郡山支部書記長)
- 「コミュニティビジネスの検討」スポーツを通じた地域の元気づくり」(山口幸夫、全日本労働連山支部書記長)
- 「地域コミュニティビジネスの取り組み」地域型NPOの確立を目指して」(網戸茂、マツダ労組組織部長)
- 「地域活性化のためのコミュニティビジネス」NPO活動を通じた社会貢献」(松井武、ヤマハ発動機労組中央執行委員)
- 「地域コミュニティ・ビジネスの取り組み」

「香川ゼミ」

- 「中国進出における注意点と労働組合が果たす役割」(金川育生) 三洋電機労組ソフトエナジー支部書記長
- 「企業の中国進出から労働組合を考える」(山本 志) 松下電工労組本社総合支部書記長
- 「日本企業が中国に進出する際の労働組合の視点」(福垣 隆) 全トヨタ労連トヨタ車体労組執行委員
- 「自動車企業が中国に進出する際の労働組合の視点」(近藤 嘉) 本田技研労組埼玉支部書記長
- 「中国進出日系企業の抱える課題と取り組みについて」(春日雅晴) ダイハツ労組電工第二支部委員長
- 「中国における日系企業内の労働関係と中国労働者の就労意識について」(邱麗珍) 中華全国総工会国際連絡部日本処

「石田ゼミ」

- 「各産別の中国を中心とした対アジア産業政策について」(安藤止樹) 金属労協労働政策局長
- 「労働組合の存在価値の再構築に向けての考察」(小早川治) 松下電工労組西部営業支部委員長
- 「組合員の組合への参画意識を上げるための活動について」(中尾義郎) 松下電工労組インフォメーションシステムズ支部委員長
- 「あるべき組合活動に関する考察」(東海林太) パナホーム労組東部営業支部書記長
- 「本田労働組合支部の存在意義について」(正田憲司) 本田技研労組栃木支部書記長
- 「あるべき組合活動に関する考察」(伊東 嗣) タイハツ労働連上シード労組副委員長
- 「成果主義と労働組合」(中武貞勝) コマツユニオン大阪支部委員長
- 「組合の求心力の低下について」(小川浩) IMFJC 石田支部執行委員



石田ゼミ:「労働組合と職場」

第38回労働リーダーシップ上級コース

古賀議長を囲んでの質問会



第38回労働リーダーシップ上級コースは、2004年11月15～27日までの期間、加盟産別・単組から8名の組合役員が参加し、開催した。

1週目（11月15～19日）は、港区白金台の明治学院大学キャンパスで、開講式、第一部「社会の大きな変化を読む」、第二部「企業の変化を読む」の各講義を受講するとともに、二つのゼミナールに分かれ、担当講師の指導のもと、組合・職場における課題解決に向けた議論を行った。

今回から、ゼミ担当に大平・神田



第38回上級コース・シンポジウム

両教授に加え、石井康彦高千穂大
学助教授にも参画していただいた。

2週目（11月21～27日）は、三浦半島の高台に位置し、相模湾と富士山を一望できる、生産性国際交流センターで、合宿制のもと、第3部「金属労協の運動の変化を読む」の講義を受けた。古賀議長からは「新たな時代の労働運動と運動課題」と題して講義を受けた後、議長を囲んで懇談的に質疑応答の場を持った。前半のゼミナールでの課題整理を踏まえて、議論を更に深めて解決策を模索し、その成果を総括シンポジウムで各人



三菱重工労組工機支部・執行委員／福本 薫

◎受講生代表（学生長）コメント
第38回IMF/JC労働リーダーシップ上級コース
最初に、今回のセミナーで講義をいただいた先生方、ならびに約二週間の期間中毎日お世話

が発表された。
また、受講生は2週間を通して、この他に実践的なスキル習得を目的とするアクティブアプローチとして「プレゼンテーション」、「ダイベイト」、「カウンセリング」、「組合戦略づくり」の4講座も受講した。

をいただいた事務局の皆様と、このような受講の機会を与えていただいた皆様へ心からお礼を申し上げます。

日々の多忙に追われる中で、初めは職場を長期間離れる事に疑問を感じながら参加したというのが本音でしたが、二日、三日と日が経つにつれ講義内容の充実さ・新鮮さから、いつしか参加出来て良かったと心から思えるようになりました。

前半一週間は明治学院大学の



大平ゼミでのディスカッション風景

中の教室で、運営委員をされている教授を指導講師とするゼミナールでディスカッションをする。ともに、日本の社会・経済の大きな変化に関する講義、そして、激変する企業の変化に関する講義を受けました。キャンパス内のヘボン館に刻まれた、明治学院大学の創立者ヘボン氏の「Do for others」の言葉はまさしく労働組合の精神と同じくするものだと感じました。

後半一週間は、山と緑に囲まれた素晴らしい環境の湘南国際村にある、IPC国際交流センターで充実した講義を受ける事ができました。

講義の内容は私自身の予想を超えて、どれも高度な内容・新しい発想・耳慣れない言葉でついて行くのがやっとの状態でしたが、それは私にとっても新鮮で有意義な内容の講義でした。そして受講後4カ月たった今、一つずつ自分の中で確実に成果となって現れていると実感しています。

ここで得た、多くの知識・経験・考え方を十分に活用して、今後の労働組合活動に取組んで行きたいと思っています。



神田ゼミでのディスカッション風景

また、ゼミの中で新たに知り合ったメンバーとも同じ苦労を共有した事でより良い人間関係を築く事ができましたので、これを大切にし更なる組合活動の充実に繋げてまいります。

◎受講生レポート一覧（受講生役職は参加当時のもの）
受講生が2週間のゼミナールを通じて各自の組合・職場での課題

について議論・研究してまとめたレポートのテーマは以下の通り。

【大平ゼミ】

- 「電子コミュニケーションの改善」
（堀井説也／三菱電機労組神戸支部執行委員）
- 「少子高齢化時代の働き方の改善」
（菊川英児／日野自動車労働組合中央執行委員）
- 「労組執行部と機関委員のあり方」
（福本 薫／三菱重工労組工作機械支部執行委員）
- 「新賃金体系への提案」
（伊藤太郎／フジクラ労組中央執行委員）

【神田ゼミ】

- 「電機連合会「職業アカデミー構想」に関する考察」
（宮 健一 電機連合本部書記）
- 「組織の活性化に向けて」
（江川裕輔／ヤマハ発動機労働組合 中央執行委員）
- 「従業員活性化への道筋」
（大森 隆正 部品労連日本発条労働組合事務局次長）
- 「組合員減少に関わる対策」
（山本義広／三菱重工労組下関造船支部執行委員）